

区民
かわ
ら
版

今年「山科駅」開設130周年



当時の山科駅
提供/山科の歴史を知る会

今から130年前の1879年(明治12年)8月18日、東海道線京都駅一大谷駅間開通に伴い、山科駅が誕生しました。
当時は、現在の琵琶湖線ルートではなく、

京都駅、稲荷駅、山科駅、大谷駅の(京都駅から伏見稲荷、深草まで南下し、ここより東へ向き、大宅、大塚、大谷へ至る)コースをとっていました。

この頃の山科駅は、現在の山科川と名神高速道路とが交わる辺りの東側、小野小学校の北側にありました。

1921年(大正10年)8月1日、東山トンネルと新逢坂山トンネルが開通したため、これまでのコースは、現在の東海道線に変更されました。それに伴い、山科駅も現在の場所に移転開業し、今では地下鉄東西線や京阪京津線の連絡駅として、多くの通勤・



通学客や観光客に利用されています。

旧山科駅のあった場所は、「旧東海道線山科駅跡」の石碑により示されています。近くへ来られた際には、日本の近代化に貢献した山科駅やその歴史を肌で感じてみませんか。

問合せ先 区総務課企画広報担当 (☎592-3066)

おこしやす「やましな」協議会 総会が開催されました

6月22日、区役所において、おこしやす「やましな」協議会の総会が開催されました。当協議会は、山科の観光振興を目的とし、平成18年に結成されました。区内の史跡の案内板や観光マップの作成のほか、イベントの企画など観光を盛り上げる様々な

活動を行っています。

この度の総会では、20年度の決算報告や21年度の事業計画などについて話し合わせ、今年秋のイベントの実施、キャラバン隊の派遣などが決定されました。

問合せ先 区総務課企画広報担当 (☎592-3066)



平成21年度「学まちコラボ事業」の認定について

市では、(財)大学コンソーシアム京都と連携し、「学まちコラボ事業」を実施しています。この事業は、大学と地域が一体となったまちづくりや地域の活性化を目的とする事業を募集し、選定のうえ助成を行うものです。

今年度は10事業が認定を受け、山科区関連では、次の事業が認定を受けました。

事業名 地域・消防・大学三位一体を目指して

団体名 京都橘大学救急救命研究会
—T.U.R.F.—

事業概要 安心安全な地域づくりを目的に、京都の学生による地域住民を対象とした救急指導を実施する。

学生が地域

に入るに当たって、消防の力を借りることにより、地域住民との交流を深めるだけでなく消防との連携も図る。また、受講者のニーズに合わせ、心肺蘇生の講習を短時間で行うなど、学生が大学で習得した知識・技術を効果的に地域へフィードバックする。

問合せ先 (財)大学コンソーシアム京都 (☎353-9100)、市市民協働政策推進室 (☎222-3103)



区民壮年ソフトボール大会



5月17日と6月28日の2日間にわたり、第33回山科区民壮年ソフトボール大会(13チーム参加)が開催されました。

多くの声援の中、熱戦が繰り広げられ、接戦の末、大塚体振チームが、2年連続で優勝しました。

大塚体振チームは、7月26日に岩倉東グラウンドで行われた京都市大会に山科区代表として出場しました。

優勝 大塚体振チーム
準優勝 音羽川体振チーム
三位 音羽体振チーム
山階南体振チーム

問合せ先 区まちづくり推進課 (☎592-3088)

見上げてみよう 山科の空 —花山天文台から— 第4回「宇宙を視力222で見る」

目で物を見る時、どこまで細かな所まで見えるかという能力のことを視力と言います。健康診断などで視力検査をして、「僕は1.0」「私は1.5」などという結果をもらう、その数値のことです。

私たちの目の黒い所の真ん中に丸い形の透明な部分があります。ここは瞳と呼ばれている所で、外からの光がここを通過していきます。この瞳には小さなレンズが付いていて、これで眼の奥に外の風景の像を作っています。この瞳の大きさ、言い換えるとレンズの大きさが、大きければ大きいほど細かな物が見えます。

人の瞳は約7mm程の大きさです。この大きさがあると、角度で表すと1度の1/60(1分角と言います)という細かさの物まで見えます。この時視力はちょうど1.0になります。

空に浮かぶ月は、その見掛けの大きさを角度で表すと30分角です。視力1.0の人が自分の目で月を見た時、月の直径の1/30程度の模様を見ることができます。それより細かな模様はぼやけてしまっていることができません。

では、天体を見る望遠鏡はどれくらいの視力を持っているのでしょうか。花山天文台にあって、夜間に月や惑星を観測している45cm屈折望遠鏡を例に取ってみましょう。こ



の望遠鏡は、レンズの直径が45cmですので、視力が222になります。人の目の222倍、細かな模様が区別できる力を持っています。

この望遠鏡で月の表面を見た時には、月の直径の1/666の細かな模様を見ることができます。右図は、この望遠鏡で撮った月の表面の様子です。

今から400年前にガリレオが小さな望遠鏡で発見した多数のクレーター(天体の衝突や火山活動などによって作られる円形窪地状の地形)がよく分かります。

実はこの45cm望遠鏡は元は30cmのレンズだったのですが、45cmの更に大きなレンズに交換して、もっと詳しく観測できるように改造したものです。

花山天文台では、この45cm屈折望遠鏡で皆さんに宇宙を見てもらう機会を用意しています。NPO法人花山星空ネットワークと一緒に



に毎月観望会を開いています。

また、10月24日(土)には、花山天文台の一般公開を行います。どなたでも参加いただけます。観望会、一般公開の詳細は次のホームページをご覧ください。

(<http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp>)

一度、視力222で宇宙を見てみませんか。

京都大学大学院理学研究科
附属花山天文台
北井礼三郎准教授執筆